

(様式2)



令和6年3月14日

京丹後市議会副議長 様

氏 名 谷津 伸幸

調査研究等報告書

下記のとおり実施しましたので報告します。

記

1 日程

令和5年10月17日(火)～令和5年10月18日(水)

2 場所

日本青年会館ホテル8Fカンファレンスルーム

3 目的

(1) 「子どもを守る」をテーマに、国の動き、地方自治の現場、医療や福祉の現場で起きていることを知ることで、「子ども政策」に対する考え、市の政策審査の一助とする。

(2) 全国の地方議員との情報交換を行う。

4 該当する政務活動費の使途項目

調査研究費

5 支出経費の内訳と金額

56,800 円

内訳： 参加費 29,000 円、ツアー旅費 27,800 円、

6 参加議員名

谷津伸幸

7 活動成果の概要、所見

別紙 報告書

8 成果物、資料等

別紙 報告書

清溪セミナー報告書

開催日: 2023 年 10 月 17 日、18 日

場所: 日本青年館

報告者: 谷津伸幸

はじめに

清溪セミナーは、地方自治体で活躍する若手議員および議員を目指す人々を対象とした研修プログラムです。毎年テーマを変えて開催されており、今回は「子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる」をテーマに開催されました。

講義内容

1. 講義 1 二人は同時に親になる 産後のズレの処方箋

本講義では、夫婦間の役割分担やコミュニケーションについて、社会学の視点から解説されました。特に、以下の点が重要であると指摘されました。

- 社会的な環境は整いつつあるが、当事者はまだ課題を抱えている。
- 育児は夫婦でチームとして取り組むことが重要。
- 無意識の思い込み(らしさ、あたりまえ、べき、ふつう、常識など)が男女間の認識に差を生む。
- 育児支援は女性の課題から男女両方の課題へと移行していく必要がある。
- 育児休業制度は充実しているが、取得率は低い。

近年、共働き夫婦が増える中で、夫婦間の役割分担コミュニケーションが重要課題となっています。夫婦が協力して育児を行うために必要な具体的な方法について学ぶことができました。

2. 講義 2 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援

本講義では、地域における子育て支援の現状と課題について、多職種の方々の経験談を交えながら解説されました。特に、以下の点が重要であると指摘されました。

- 多職種が連携して、切れ目ない子育て支援を提供することが重要。
- 周産期から始まる支援が重要。
- 母子保健から児童福祉への連携を強化する。

- ・ 電子母子手帳を活用しつつ、紙媒体も重要なツールとして活用する。
- ・ 児童福祉法改正により、子供の権利、親の養育責任、自治体の支援義務が明確化された。

子育て支援は、行政だけでなく、地域住民や民間事業者など様々な主体が連携して行う必要があります。地域における効果的な子育て支援のあり方について学ぶことができました。

3. 講義 3 子どもたちの心と命を守るために～学校にアウトリーチする NPO

本講義では、学校における子どもたちの心のケアについて、NPO 法人の活動を紹介しながら解説されました。特に、自傷行為は深刻な問題であり、以下の点が重要であると指摘されました。

- ・ 子どもたちの心の SOS に早期発見・対応が重要。
- ・ 子どもたちに寄り添い、安心して話せる場を提供すること。(CAP プログラムは、子供の権利を意識した支援プログラム)
- ・ 子供たちが安心して生活できる社会を実現するために、大人たちが理解し、行動することが必要。

近年、子どもの自殺やいじめなどの問題が深刻化しています。本講義では、学校における子どもたちの心のケアの重要性と、具体的な方法について学ぶことができました。

4. 講義 4 こども家庭庁創設の経緯と役割

本講義では、こども家庭庁の創設の経緯と役割について解説されました。こども家庭庁は、子どもに関する施策を総合的に推進するために設置された新しい行政機関です。

- ・ こども家庭庁は、子供の命を守ることを使命としている。
- ・ CDR、LMC、ネウボラなど、地域に合わせた支援体制を整備していく。
- ・ こども家庭庁は、省庁の縦割り、都道府県・市町村の横割り、年代割を解消していく。

こども家庭庁の創設により、子どもに関する施策がより効果的に推進されることが期待されます。

5. 講義 5 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる

本講義では、子どもへの投資が地域活性化につながるという考え方で、明石市の事例が紹介されました。

- ・ 政治は生活に直結しており、まちを変える力を持っている。
- ・ 子供は未来であり、子供への投資は地域経済の活性化につながる。
- ・ 公共投資と子供政策のバランスを考え、子供中心の政策を推進する。
- ・ 高齢者政策は、子供政策の充実後に取り組むべき。
- ・ 子供にとって安心できるまちづくりを目指し、公助と共助を組み合わせた政策を推進する。

子どもたちは地域の未来を担う存在です。子どもたちが安心して暮らせる環境を整備することは、地域活性化にとっても重要であり、今後の政策の中心に据える必要性を感じました。

6. 講義 6 ヤングケアラー

本講義では、ヤングケアラーと呼ばれる、家族の介護や家事を行っている子どもたちの問題について、講師の実体験を踏まえ解説されました。

- ・ ヤングケアラーは、家庭の事情で十分な教育を受けられなかったり、社会参加が制限されたりする課題を抱えている。
- ・ ヤングケアラーの支援体制を整備し、安心して生活できる環境を築くことが必要。
- ・ 学校は、ヤングケアラーの相談窓口や居場所を提供する役割を担うことができる。

ヤングケアラーは、自身の成長や学習に支障をきたすリスクがあることなどが指摘されています。ケアラーであるこども達が困りはじめる前に状況を把握することが大切です。学校が担う役割の重要性を考えさせられました。

7. 講義 7 すべての子どもの成長と、子育てを支えるためには

本講義では、社会環境の変化を踏まえ、少子化対策としての総合的な子育て支援の必要性について解説されました。

- ・ 少子化対策は、出生率の向上だけではなく、子供の成長と子育てを支える社会環境の整備が必要。
- ・ 議会は、多様な家族形態を反映した政策立案を進めるべき。
- ・ 男女間の給与格差を是正し、地方創生を進める。
- ・ DV 対策を強化し、貧困問題に取り組む。
- ・ こどもの居場所づくりを進め、虐待の防止に取り組む。

少子化対策は、単に出生率を高めるだけではなく、子どもたちの健やかな成長と発達を支援することも重要です。また、子育て支援を総合化するためには、教育、福祉、医療など様々な分野の連携の必要性を考えさせられました。

所見

清溪セミナーでは、子どもを取り巻く様々な課題と、それを解決するための多角的な取り組みについて議論されました。

特に印象的だったのは、以下の点です。

- 育児における男女の役割分担の変化と、無意識の思い込みによるジェンダーの問題
- 地域における顔の見える切れ目ない子育て支援の重要性
- 子どもたちのこころと命を守るためのアウトリーチ活動
- こども家庭庁の創設と、縦割り、横割り、年代割の解消
- 子どもへの投資が地域経済の活性化につながるという考え方
- ヤングケアラーを含む、すべての子どもたちの成長と、子育てを支えるための社会システムの構築

これらの議論は、今後の行政や地域における子育て支援策の策定、ひいては子どもたちが安心して暮らせる社会の実現に役立つものと考えられます。